

# OpenAM 9.5 インストールガイド



オープンソース・ソリューション・テクノロジー(株)

作成日: 2012 年 8 月 7 日

リビジョン: 1.7

## 目次

|                                     |   |
|-------------------------------------|---|
| 1. 概要                               | 1 |
| 1.1 インストール条件                        | 1 |
| 2. 事前準備                             | 2 |
| 2.1 JDK のインストール                     | 2 |
| 2.2 環境変数 <code>JAVA_HOME</code> の設定 | 2 |
| 2.3 JAVA ヒープサイズ                     | 2 |
| 2.4 ホスト名の名前解決                       | 2 |
| 3. OpenAM のインストール                   | 4 |
| 3.1 OSSTech パッケージ (RPM) の場合         | 4 |
| 3.1.1 RPM 一覧                        | 4 |
| 3.1.2 インストール手順                      | 4 |
| 3.1.3 Tomcat の起動                    | 4 |
| 3.2 war ファイルをデプロイする場合               | 5 |
| 3.2.1 OpenAM のデプロイ                  | 5 |
| 3.2.2 Tomcat の起動                    | 5 |
| 4. OpenAM 用 LDAP スキーマファイルのインストール    | 6 |
| 4.1 前提条件                            | 6 |
| 4.2 スキーマファイルパッケージのインストール            | 6 |
| 4.2.1 RPM 一覧                        | 6 |
| 4.2.2 インストール手順                      | 6 |
| 4.2.3 スキーマの有効化                      | 6 |
| 5. 改版履歴                             | 7 |

## 1. 概要

本書は OpenAM のインストールガイドです。

### 1.1 インストール条件

本書では、OpenAM をインストールする環境として以下の環境を想定しています。

- OS : Linux
  - Red Hat Enterprise Linux 5 i386/x86\_64
  - Red Hat Enterprise Linux 6 x86\_64
  - CentOS 5 i386/x86\_64
  - CentOS 6 x86\_64
- JDK 6 (Oracle JDK)
- Tomcat 6 (OSSTech の RPM パッケージをインストールする場合、事前の Tomcat インストールは不要です。以下、Tomcat がインストールされているディレクトリを<TOMCATDIR>と記載します)
- OpenAM 9.5

## 2. 事前準備

本章では、OpenAM インストールを開始する前の確認事項について説明します。

### 2.1 JDK のインストール

OpenAM の動作には **JDK 6(Oracle JDK)**が必要です。JDK は Oracle のサイトからダウンロードした RPM 版を使用します。ダウンロードしたファイルを `jdk-6uXX-linux-x64-rpm.bin` とします(XX は Update のバージョンです)。以下の手順で JDK をインストールします。

```
# sh ./jdk-6uXX-linux-x64-rpm.bin
```

コマンドラインのインストーラーが実行され、自動的に **JDK** の **RPM** 群がインストールされます。

### 2.2 環境変数 **JAVA\_HOME** の設定

JDK 6(RPM 版)がインストールされ、環境変数「**JAVA\_HOME**」が正しく設定されていることを確認して下さい。

OSSTech 版 Tomcat 6 (RPM パッケージ)では、Red Hat Enterprise Linux 系のデフォルトの **JDK** インストールパス(`/usr/java/default`)を **JAVA\_HOME** として参照します。

### 2.3 JAVA ヒープサイズ

OpenAM を動作させる環境では、Java のヒープサイズを **1024MB** 以上に設定することを推奨します。ヒープサイズは環境変数 **JAVA\_OPTS** により指定できます。

以下はコマンドラインで指定する例です。

```
$ export JAVA_OPTS="-Xmx1024m -XX:MaxPermSize=256m"
```

その他、OS 起動時に実行されるスクリプト内、Tomcat の起動スクリプト内などで **JAVA\_OPTS** を指定することもできます。

OSSTech 版 Tomcat6 (RPM パッケージ)では、設定ファイルで **JAVA** ヒープサイズを **1024MB** に指定しているため、この設定は不要です。

### 2.4 ホスト名の名前解決

OpenAM はシングルサインオンを実現するためにクッキーをドメインに対して設定します。そのため OpenAM サーバーへのアクセスは完全修飾ドメイン名(FQDN)で行う必要があります(注 1)。FQDN が DNS 等により名前解決可能であることを確認して下さい。

Linux サーバー(Red Hat 系)の場合は、以下のファイルにも **FQDN** を記述してください。

- `/etc/sysconfig/network`

なお、本書では OpenAM サーバーのホスト名を「`sso.example.co.jp`」として説明します。

(注 1) : IP アドレス等の完全修飾ドメイン名以外でアクセスがあった場合には、**OpenAM** は完全修飾ドメイン名を使って自分自身にリダイレクトを行います。

## 3. OpenAM のインストール

本章では OpenAM のインストール手順について説明します。

### 3.1 OSSTech パッケージ (RPM) の場合

OSSTech の RPM パッケージを利用してインストールする手順を説明します。Tomcat と OpenAM を RPM パッケージとしてインストールします。

#### || 3.1.1 RPM 一覧

以下の RPM をインストールします(X の部分にはバージョン番号が入ります)。

```
osstech-base-3.0-X.el5.noarch.rpm
osstech-support-3.0-X.el5.noarch.rpm
osstech-openam-9.5.X_RTM-X.el5.noarch.rpm
osstech-openam-tools-9.5.X_RTM-X.el5.noarch.rpm
osstech-tomcat6-6.0.X-X.el5.noarch.rpm
```

#### || 3.1.2 インストール手順

まず、OSSTech のパッケージを展開したディレクトリに OpenAM のパッケージがあることを確認します。

```
# cd osstech-openam-9.5.X_RTM-X.noarch.el5/pkgs/RPMS
# ls base
osstech-base-3.0-X.el5.noarch.rpm
osstech-support-3.0-X.el5.noarch.rpm
# ls openam
osstech-openam-9.5.X_RTM-X.el5.noarch.rpm
osstech-openam-tools-9.5.X_RTM-X.el5.noarch.rpm
osstech-tomcat6-6.0.X-X.el5.noarch.rpm
```

rpm コマンドを使用して、RPM パッケージをインストールします。

```
# rpm -ivh base/*.rpm
# rpm -ivh openam/*.rpm
```

#### || 3.1.3 Tomcat の起動

Tomcat を起動します。

```
# /sbin/service osstech-tomcat6 start
```

Tomcat が起動したら、ブラウザで以下の URL にアクセスします。

- <http://sso.example.co.jp:8080/openam/>

「設定オプション」という画面が表示されます。

以上でインストールは完了です。この画面から OpenAM の初期設定を行います。

## 3.2 war ファイルをディプロイする場合

OpenAM の war ファイルを Tomcat にディプロイする手順を説明します。war ファイルは Tomcat 以外のアプリケーションサーバーにディプロイすることも可能です。

### 3.2.1 OpenAM のディプロイ

OpenAM の war ファイルを Tomcat の webapps ディレクトリにコピーします。

```
$ cp openam.war <TOMCATDIR>/webapps/
```

### 3.2.2 Tomcat の起動

Tomcat を起動します。

```
$ export LANG="en_US.UTF-8"  
$ <TOMCATDIR>/bin/startup.sh
```

OSSTech Tomcat 以外のアプリケーションサーバーを利用する場合は、文字化けを防ぐために環境変数 LANG に "en\_US.UTF-8" を設定してください。

Tomcat が起動したら、ブラウザで以下の URL にアクセスします。

- <http://sso.example.co.jp:8080/openam/>

「設定オプション」という画面が表示されます。以上でインストールは完了です。

## 4. OpenAM 用 LDAP スキーマファイルのインストール

本章では OpenAM のデータストアとして OSSTech 版 OpenLDAP を利用する場合に必要なスキーマファイルのインストール手順について説明します。作業は OSSTech 版 OpenLDAP がインストールされているサーバーで行います。

### 4.1 前提条件

- OSSTech 版 OpenLDAP がインストールされていること。

### 4.2 スキーマファイルパッケージのインストール

RPM パッケージを利用してインストールする手順を説明します。

#### 4.2.1 RPM 一覧

以下の RPM をインストールします(X の部分にはバージョン番号が入ります)。

```
osstech-openam-ldapschema-x.x-x.el5.noarch.rpm
```

#### 4.2.2 インストール手順

rpm コマンドを使用して、RPM パッケージをインストールします。

```
# rpm -ivh osstech-openam-ldapschema-X.X-X.el5.noarch.rpm
```

#### 4.2.3 スキーマの有効化

/opt/osstech/etc/openldap/slapd.conf に下記の定義を追加し、インストールした OpenAM 用のスキーマファイルを読み込むように設定します。

```
include /opt/osstech/etc/openldap/schema/openam.schema
include /opt/osstech/etc/openldap/schema/saml2.schema
```

設定変更後、OpenLDAP を再起動します。

```
# /sbin/service osstech-ldap restart
```

以上で完了です。



## 5. 改版履歴

- 2010 年 12 月 16 日
  - 初版作成
- 2011 年 2 月 28 日
  - リビジョン 1.1
  - OSSTech 版 Tomcat 6 RPM に関する注意事項を追記
- 2011 年 6 月 8 日
  - リビジョン 1.2
  - Red Hat 系 OS の場合は、`/etc/sysconfig/network` にも **FQDN** を記述することを追記
- 2011 年 8 月 17 日
  - リビジョン 1.3
  - **JDK** のインストール方法を追記
- 2012 年 3 月 26 日
  - バージョンの記述を修正
- 2012 年 4 月 19 日
  - リビジョン 1.4
  - **OpenAM** 用スキーマファイルのインストール手順を追記
- 2012 年 5 月 16 日
  - リビジョン 1.5
  - **Tomcat** 起動時の環境変数に関する説明を追記
- 2012 年 8 月 6 日
  - リビジョン 1.6
  - **RPM** 一覧にパッケージを追加し、インストール手順を変更
- 2012 年 8 月 7 日
  - リビジョン 1.7
  - 「1.1 インストール条件」の OS バージョンに **Red Hat Enterprise Linux 6**、**CentOS 6** を追加
  - 「4 **OpenAM** 用 **LDAP** スキーマファイルのインストール」の説明を修正